

総務委員会 行政視察調査報告書

- 1 視 察 日 2024年5月15日（水）～17日（金）
- 2 視 察 先 調査事項
- 岐阜県大垣市
・大垣市スマートシティ推進計画について
 - 岐阜県美濃市
・美濃和紙用具ミュージアムふくべについて
 - 岐阜県岐阜市
・みんなの森 ぎふメディアコスモスについて
- 3 視 察 者
- | | |
|---------|--------------------------|
| 委 員 長 | 岡 本 昭 治 |
| 副 委 員 長 | 石 田 清 子 |
| 委 員 | 上 田 伴 子 |
| 委 員 | 木 谷 敏 勝 |
| 委 員 | 竹 中 理 真 |
| 委 員 | 西 田 真 志 |
| 委 員 | 松 井 正 志 |
| 当 局 | 若 森 洋 崇（D X ・ 行財政改革推進課長） |
| 議会事務局 | 堂 垣 真 弓 |



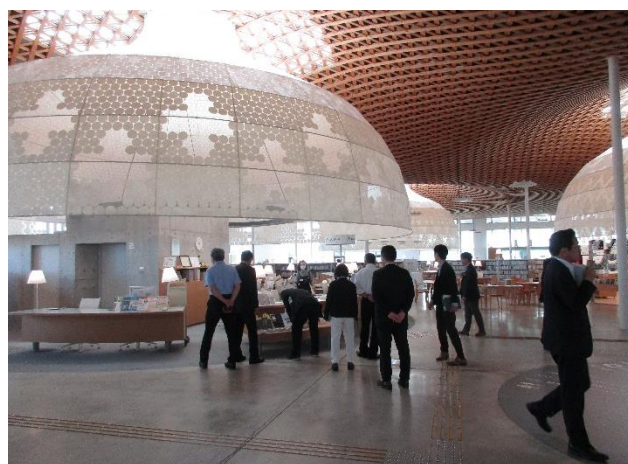
大垣市スマートシティ推進計画の説明をうける



大垣市議場にて



美濃和紙用具ミュージアムふくべにて



「知の拠点」中央図書館（ぎふ メディアコスモス）

日 時	2024 年 5 月 15 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
視 察 先	岐阜県大垣市
調査項目	大垣市スマートシティ推進計画について
調査内容	【基本理念】 「市民一人ひとりが幸せを実感できるスマートシティ大垣の実現」（誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化を進める） 【基本方針】 (1) 基本方針 1：デジタル化による市民サービスの向上 ①スマートな行政手続きの推進（AI を活用した対話型 FAQ サービスの充実等） ②安全で快適なまちづくり（ごみ分別アプリ、AI を活用した道路補修診断等） ③やさしさと活力のあるまちづくり（産業への ICT 導入やデジタル関連産業の創出支援等） ④子どもがすくすく育つまちづくり（子育て支援アプリの充実、保育業務支援システムの円滑運用等） (2) 基本方針 2：行政の高度化・効率化 ①行政業務のデジタル化の推進（RPA・AI-OCR の導入拡大、AI 会議録作成システムの導入検討等） ②情報システムの標準化・共通化 ③官民連携の推進（官民連携プラットフォーム構築の検討等） (3) 基本方針 3：安心・安全なデジタル環境の整備 ①セキュリティ対策の徹底 ②業務継続性の確保 ③デジタル利活用環境の構築 【推進体制】 (1) 庁内推進体制：市長を本部長とする「大垣市スマートシティ推進本部」を設置し、全部局が一体となって取り組む体制を構築 (2) 市全体：先進的な研究・開発を進める企業や地域団体、高等教育機関等との意見交換や連携の積極的推進 【スマートシティ推進への課題】 (1) 人口減少・少子高齢化・異常気象・新型コロナウイルスなどの社会全体の共通課題への対応 (2) インターネットやスマートフォン等のデジタル技術は、日々の暮らしに必要な不可欠となるなど、大きく変化する生活スタイルへの対応 (3) 個人情報等の情報資産の漏洩リスクやデジタル機器に不慣れな方への対応（セキュリティ、デジタルディバイド）
所 感	(1) 官・民を通じて、少子化と生産年齢人口の減少・偏在による人手不足が顕在化し、対応が課題となっているが、テクノロジーの活用によってこれを補い、生産性向上を図ることが必要である。人手を確保する対策も必要だが、それだけでは長期的に「負け戦」になる。 (2) 「not to do リスト」や「手作業リスト」をつくり、テクノロジーを活用して仕事は頑張らないという視点で生産性の向上が進められている。行政では、手書き申請を AI で読み取り、RPA でデジタル化する等の例がある。

日 時	2024 年 5 月 16 日（木） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
視 察 先	岐阜県美濃市
調査項目	美濃和紙用具ミュージアムふくべについて
調査内容	【施設の概要】 (1) 「美濃和紙用具ミュージアムふくべ」は美濃市の北部の活性化（観光拠点）と和紙産業の振興、地域交流の推進（陶芸教室）など、5000 点近いものを展示・公開している。 (2) 美濃和紙は 1300 年の歴史があり、奈良の正倉院の紙はすべて美濃和紙であり、繁栄期は江戸時代に遡る。 【廃校活用の経緯】 (1) 昭和の大合併で誕生した美濃市は、小学校施設の統廃合後の活用が課題であり、所管は教育委員会人づくり文化課が所管しており、シルバー人材センターが施設管理をしている。 (2) 美濃市では市民を交えた検討会を何度も開催し、統廃合後の活用をどのようにしていくのかを市民の皆さんと考える協働作業を重視している。 (3) 最初は生涯学習施設の転用を検討し、市民団体活動補助制度を使って地域住民によるグラウンドの芝生化や維持管理、体育館の貸し出しや市の書庫としても活用していた。廃校になると自動的に生涯学習施設となっていた。 (4) 次に、市民の意見から高齢者施設が不足しているとの声を聞き、民間事業者による活用で特別養護老人ホームと私立保育園（認定子ども園）を整備した。いずれも無償譲渡し改修費は民間が負担をした。（議会の議決あり） (5) そして、地方創生交付金を活用し施設整備を行い、平成 30 年に「美濃和紙用具ミュージアムふくべ」と「みの木工工房 FUKUBE」をオープンした。
所 感	(1) 合併後、学校施設の利活用による施設運営と、市と住民とのきめ細やかな検討会などによる協働作業を行い、現在の施設を運営されているノウハウを勉強した。 (2) 美濃市の伝統的文化は美濃和紙が有名であり、人口減少や文化継承の人材不足が進む中、緊急雇用対策事業や伝統文化、民俗資料の保護・整理を目的として施設を運営されていた。 (3) 議員からの質問では、廃校から利活用へのタイミングはどの部署か、また民間事業者の活用で特別養護老人ホームとして使用させたときの担当課や経緯など様々な意見が活発に出た。 (4) 今回の視察では本市と同様人口減少が進む中、本美濃和紙が作れる技術者が少なくなった中でもあるが、和紙を使ったランタンを全国から募集し展示をしたり、台湾のランタンフェスティバルにも出店したり、美濃まつりに和紙を使った作品を展示したりするなど、努力されている姿は本市も見習うべき事が多く、大変に参考になった。学校跡地をうまく活用されている様子も今後の豊岡市にとって大変参考になった。

日 時	2024 年 5 月 17 日（金） 午前 9 時 00 分～午前 10 時 30 分
視 察 先	岐阜県岐阜市
調査項目	みんなの森 ギフメディアコスモスについて
調査内容	【みんなの森 ギフメディアコスモスのコンセプト】 (1) 岐阜市の「知の拠点」として、訪れる人々の未来を開く扉となる市立中央図書館、人と人をつなぐ「絆の拠点」となる市民活動交流センターと多文化交流プラザ、「文化の拠点」となる展示ギャラリー、ホール等からなる複合文化施設で、岐阜市の新たなシンボルに位置づけられている施設。 (2) 「屋根のついた公園」をイメージし、いつでもだれでも出入りでき、何をしても良い施設を目指している。 【施設概要】 1 階 市民活動交流センター、多文化交流プラザ、ホール・展示施設 2 階 市立中央図書館 【年間利用者数】 メディアコスモス全体で、年間 131 万人（月間約 11 万人） 利用者で最も多い世代は、未成年者世代で 32% 【年間施設維持費】 3.5 億円（人件費を除く）利用者 1 人当たり約 267 円 【施設見学者の状況】 視察件数 300 件、視察者 約 5, 000 人 【運営委員会】 学識者、公募者、商工会議所等 13 人で構成、年 1 回から 3 回 委員会を開催
所 感	(1) 施設内のスペースおよび空間が十分に取られ、全体的にゆとりがあり、そのゆとりが、利用者のゆとりにつながっているように感じた。また、そのゆとりがまち全体を豊かにしているように感じた。特に図書館においては、単に蔵書数が豊富であるというだけでなく、何時間でもいたくなるような空間の居心地の良さがあり、子どもからお年寄りまで、さまざまな利用者が共存できる図書館である。 (2) 施設は市直営であること、および施設維持費に年間 3.5 億円（人件費を除く）が必要となっていることを考えると、市民との協働により利用者を増やすことや、より充実した時間が提供できるよう、さまざまな情報発信や取り組みが必要と感じた。 (3) 人口約 40 万人都市における複合文化施設の成功例を視察することができた。